



外国出張報告書

平成 26 年 7 月 14 日

1. 出張国名 バングラデシュ
2. 出張月 平成 26 年 6 月
3. 出張目的
 - ・ 稲作の災害被害に対する適応策の実態調査：A
 - ・ 稲作の災害被害の実態調査：A

4. 成果の概要

気候変動がバングラデシュの稲作に与える影響を分析する一環として、バングラデシュ北西部の農業普及局地方事務所、NGO、農村を訪問し、農業被害に関する聞き取り調査を行った。その結果、主な被害は小雨期（Kharif I、カリフ I）の収穫期湛水、雨期（Kharif II、カリフ II）の周期的洪水、乾期（Rabi、ラビ）の冷害、カリフ I～II の干ばつ、そしてカリフ I の高温障害と竜巻であることがわかった。これらのうち、洪水への適応策としては、BRRI dhan-51 や 52 という浸水耐性稲の導入が、冷害への適応策としては、乾燥苗床の利用が、そして干ばつへの適応策としては、BRRI dhan-56 や 57 という干ばつ耐性稲の導入が、それぞれ広がり始めていることがわかった。

ポンプによる地下水灌漑がバングラデシュの農業生産を飛躍的に拡大させてきたが、地下水位の低下傾向が見られるようになり、今後は地下水と農業生産の関係を分析することも重要な課題であることが明らかとなった。